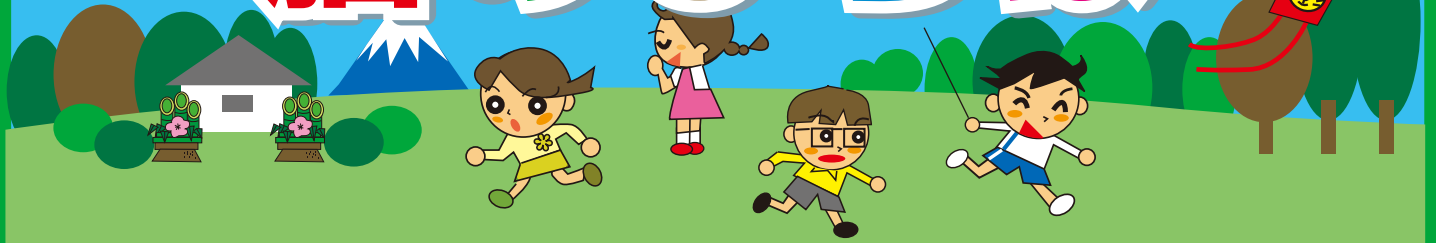


2011.10

ぐんぐん伸びる子どもたちの脳
知って得する最新の脳科学

脳のひるば



遺伝的にみても、父と母の役割はやっぱり違う！



メンデルの遺伝法則って勉強したの覚えてますか？

子どもは母親と父親の遺伝子の半分ずつを受け取るというメンデルの法則(Gregor Mendel)が発表されて以来、遺伝学の基盤となっていたが、20世紀に入ってからこの概念は完全でないことが明らかにされた。胎児の発達段階では父と母の遺伝子が同等に機能しているわけではないというのだ。この遺伝子の研究から自閉症や統合失調症、アルツハイマーといった疾患は、父と母の遺伝子のバランスが崩れることによって現れることも分かっている。



論理的な部分は母親！生きるための力は父親！！

さらに子どもの脳の発達に父親由来の遺伝子と母親由来の遺伝子の役割がどのように異なるのかも分かかってきた。言語や複雑な思考をつかさどっている脳領域の形成には、母親由来の遺伝子のほうが重要であり、成長や摂食、生殖をつかさどる脳領域の形成には父親由来の遺伝子の方が重要らしい。これらの結果をまとめると、社会生活を送る上で重要な高次認知機能は母親由来、生存に必要な機能は父親由来だということになる。



母親は礼儀作法を、父は教育を推進するのが良いらしい

脳の特性と考えると日常生活で、きまりを守る、マナーを身につけるといった社会性に関することは母親が担当する。身体を動かす、異性との関わりといった教育は父親が担当するのが脳の特性からして合っているかもしれない。このように見ていくと、昔から日本ではこのような風潮があったような気がしますね。



あくまでも遺伝のお話。子どもには大きな可能性がある

母親が勉強が出来るから、父親が草食系だからうちの子の将来は・・・という話ではありません。遺伝の本質に関わらず過保護や虐待といった環境要因でも子どもは大きく変わります。21世紀は、便利になった反面、子どもに向ける時間が昔よりも減ってきているという統計結果が出されています。積極的に子どもと関わり、父と母の力を合わせて子育てをしていくのが大切なのはいつになっても変わりません。

